



2011年1月5日放送

印象に残る症例①

どれみ耳鼻咽喉科 院長 今中 政支

国民の5人に1人と言われるスギ花粉症は今や国民病となっています。2010年の夏は記録的な猛暑でしたので、2011年の春はスギ花粉の大量飛散が予想されています。今回はスギ花粉症の漢方治療についてお話したいと思います。

漢方薬には「副作用は少ないがゆっくりしか効かない」というイメージがあるため、慢性疾患をじっくり治す体質改善の薬だと認識されている先生もいらっしゃるかも知れません。ところが、漢方は「傷寒論」という「急性感染症に対する治療バイブル」的な成書に端を発しており、適切な方剤を処方すれば驚くほどの即効性が期待できます。一方、アレルギー性鼻炎に唯一保険適応を持った小青竜湯を花粉症に使ってみたが手応えがなかったという声も少なくありません。小青竜湯単独では炎症制御が不十分なのです。

小青竜湯が鼻閉に無効な例は、越婢加朮湯、大青竜湯、虎龍湯(小青竜湯+五虎湯)などに変更すると効果的です。越婢加朮湯は構成生薬として麻黄、石膏の他に、利尿作用のある蒼朮を含んでいます。炎症性浮腫を制御できるため、花粉症に対して頻用すべき薬といえます。大青竜湯は、エキス剤にないため、麻黄湯と越婢加朮湯を併用して代用します。しかし、麻黄の総量が11gとなり、抗炎症作用が強化される反面、副作用も懸念され、その使用は短期に制限されます。

そこで私は、小青竜湯に五虎湯を併用する炎症制御に優れた方剤を創作し、虎龍湯と命名しました。鼻水、鼻閉などの鼻症状だけでなく、咽頭症状にも大変効果的でした。小青竜湯と五虎湯の比率は時期や症状に応じて変化させると良いと思います。

症例1は、58歳男性。25年来の春の花粉症で、鼻水、鼻閉、目のかゆみなど諸症状は著しい上に、職業がゴルフのコーチであるため、野外に出ることが多く、眠気の少ないアレグラの内服や抗ヒスタミン薬の点眼、ステロイド点鼻などでどうにかこうにかやり過ごしてはいるものの、2月から5月初めまで毎年往生しているとのことでした。2009年は大量飛散年でしたが、3月11日から開始した小青竜湯と五虎湯の併用で、アレグラも不要となり快適に過ごすことが出来ました。

症例2は、31歳女性。10年来の中等症のスギ花粉症です。2007年の中等量飛散年は、アレロックと越婢加朮湯の併用で、2008年は少量飛散年であり、防風通聖散のみで快適に過ごすことが出来ました。しかし、2009年は越婢加朮湯も効果不十分で、アレロックを使用するとかえって、鼻粘膜の乾燥のためか、鼻閉が増悪するとのことでした。3月11日から開始した小青竜湯と五虎湯と桔梗石膏の併用が著効しました。

症例3は、25歳の女性。冷え性と肩こりが強いと言います。以前、アレグラの服用でも体がだるくなったとのことで、漢方治療を希望して来院されました。ただし、小青竜湯で胃もたれを経験しておられました。六君子湯と麻黄附子細辛湯の併用を処方したところ、副作用もなく、2009年の春は経過良好でした。

さて、続いてはQ&Aのコーナーです。それではラジオの前の皆さんからのご質問にお答えしたいと思います。

質問1：長く飲まないといけない漢方薬でしょ？私の鼻水ジュルジュルを今すぐ止めることができるのですか？

回答1：私がよく処方する虎龍湯を服用して下さい。10分以内に鼻水も鼻づまりも楽になります。漢方薬は元来、急性感染症に対応するために考案されたものであり、驚くべき即効性を持っています。第2世代の抗ヒスタミン薬でも効果を得るのに30分以上かかりますから、麻黄剤（生薬の麻黄を含む）の即効性は相当なものです。花粉症シーズン前から予防的に服用する必要もありません。症状が出て来てからで十分間に合います。

質問2：よく効くとお伺いすると眠気が心配です。漢方薬は眠気がありませんか？

回答2：眠気は全くありません。麻黄剤にはコーヒーを飲んだ時のような覚醒作用があり、体も元気になります。かといって、不眠症になることもありません。

質問3：友人が「花粉症シーズン前に注射をうつと楽だ」と言っています。大丈夫でしょうか？

回答3：徐放型ステロイド製剤（ケナコルトなど）を筋肉に注射する方法ですね。安易に使用することは大変危険です。自身の副腎機能低下は避けられず、感染症に罹りやすくなったり、骨の生成障害が懸念されます。既存の胃潰瘍や糖尿病が悪化することは言うまでもありません。全身的副作用に注意し、投与前後に副腎皮質ホルモンの検査を怠るべきではありません。「鼻アレルギー治療ガイドライン」には満月様顔貌、皮膚障害、月経異常などが時に起こるので望ましくない治療法だと糾弾されています。

西洋薬による薬物治療で効果が不十分であったため、あるいは眠気にお困りだったため、この治療法に走られたのだと思います。炎症制御に優れた漢方薬を服用することによって、ステロイド薬に頼る必要はなくなります。

質問4：薬局で漢方薬の小青竜湯を勧められて購入しました。あまり効きません。どうしてですか？

回答4：小青竜湯はうすい鼻水が出るタイプの感冒に有用で、ダニやハウスダストに対する通年性アレルギー性鼻炎の臨床治験で優れた成績を示したお薬です。しかし、2007年にスギ花粉症に対する小青竜湯の治療成績を検討したところ、その有効率は45%でした。これは花粉症が風邪（ふうじゃ）と熱邪の両面の性質を持つからです。炎症を生じて、発赤した鼻粘膜や眼球結膜を清熱する方剤が必要となります。麻黄と石膏が配合された五虎湯を併用することで治療成績は有効率87%と飛躍的に向上しました。五虎湯と小青竜湯の同時併用、これが私の命名した虎龍湯の正体です。錠剤での服用も可能です。咳が出るような激しい花粉症状にも対応出来ます。他には越婢加朮湯、五虎湯合川芎茶調散など清熱に配慮した方剤を勧めています。一方、元来冷え症で、麻黄附子細辛湯など体を温める性質のお薬がよく効く方もいらっしゃいます。

質問5：胃腸が大変弱いのです。虎龍湯を飲んでも大丈夫でしょうか？

回答5：虎龍湯は強力な麻黄剤であり、残念ながらお勧めすることはできません。麻黄剤は胃腸の弱い方や狭心症などの心疾患を有する方と尿閉が起こりやすい方には不向きなのです。胃もたれタイプの方でしたら、六君子湯合麻黄附子細辛湯や苓甘姜味辛夏仁湯がお勧めです。これに眠気の心配の少ないタリオンやアレグラといった第2世代の抗ヒスタミン薬を支障（口渇など）のない限り併用して頂いています。よく口内炎ができるタイプの方は清熱作用のある黄芩・黄連が配合され鼻閉にも効果のある半夏瀉心湯がお勧めです。

質問6：冷え症体質です。虎龍湯を飲んでも大丈夫でしょうか？

回答6：大丈夫です。体全体は冷え症でも、局所が熱証の場合は少なくありません。速やかに症状を抑えるためには虎龍湯などの麻黄剤が有用です。しかし、次年度からは冬季に漢方薬によって冷え症対策をすることによって花粉症症状の軽減や発現の予防が可能です。

質問7：漢方薬って、値段が高価ではありませんか？

回答7：当院では、保険適応のエキス製剤を用いています。例えば虎龍湯の一日薬価は約200円程度で、3割負担の方ですと、約60円となります。一ヶ月服用しても1800円で

すね。決して高価なものではありません。効果に優れ、副作用も少なく、QOLの面から考えても良い治療薬だと考えています。

質問8：現在、妊娠6ヶ月です。花粉症で大変苦しんでいます。助けてください。

回答8：西洋薬として頻用される抗ヒスタミン薬には催奇形性が報告されており、妊娠中の使用を避けなければいけません。その点、漢方薬は安心です。しかし、胎児の臓器形成時期である15週まではなるべく全ての内服薬を避けたいものです。ただし、安胎薬として知られる当帰芍薬散は妊娠中のどの時期にも安心して飲める漢方薬であり、鼻粘膜の水腫れを軽減する作用があるため、お勧めしています。

質問9：花粉症時期は顔まで痒くて仕方ありません。どうにかできませんか？

質問9：清熱作用のある漢方薬が適しています。特にニキビに対して適応のある清上防風湯が大変よく効きます。また、目玉を取り出して一度洗いたいような衝動に駆られるほどの眼症状には黄連解毒湯が有効です。

ご質問は以上のようなようです。皆様、参考になりましたでしょうか？

本日はスギ花粉症の漢方治療についてお話致しました。

余談になりますが、映画「燃えよドラゴン」で有名なブルースリーに感化されて空手を始めた私ですが、阪神タイガースのファンでもあり、今年も四回、甲子園球場の一塁側アルプススタンドで応援しました。熱狂的なファンの影響を受けて、応援用のユニフォームに豪華な刺繍も施しました。花粉症に効果的なタイガーとドラゴンの組み合わせ、虎龍湯を是非お試し下さい。タイガーと言えば、すっかりへこんじゃったゴルフのタイガーウッズにももう一度、頑張ってもらいたいものです。